

今回初めての沖縄平和行進参加でした。沖縄の抱えている、直面している問題課題に、皆で声を上げる事、全港湾だけでない人達も一緒に訴えかける事、これがいつの日か沖縄のためになると信じて行進させてもらいました。

また、ひめゆりの塔、沖縄平和記念館で悲惨な歴史やそれからの生活についても学んできました。戦死するくらいなら家族が家族を手にかける、捕虜にするなら死んでやる、当時の沖縄、日本人の事を考えると今では言い表し難い事ばかりでとても胸が痛くなりました。終戦80年。それからの沖縄・日本、アメリカ・米軍との関係。良くなったのかどうか、私が感じた答えは直感的にNOだと思う。戦争真只中、敗戦すぐの流れ方は、当然良くはないと思うが現在に至るまで良い関係で国際的な関係は持続しているとは思わない。米軍により相次ぐ日本人女性への性的暴行、暴力や街で大手を振り練り歩く横暴な態度やはりそれらは、当時敗戦した日本人、沖縄でのあまりにも悲惨な死を遂げた先人たちへの侮辱、そして何より米軍基地が今でも存在している故の現状だと思う。米軍でもそんな事をしない人達がいる、全員がそうではないということも分かるが、そのような事故・事件は戦争が原因なのか？そこは関係のない米兵の一部の人間性なのか？私は日本人として、こういったアメリカ・米軍基地と沖縄・日本人の現在でも続いている複雑に絡み合う関係を、全国の皆さんと本当に深く考えていきたいと思っている。決してアメリカ人が悪いではなく、戦争が悪い。戦争が起こった原因は必ずあり、そして必ずとして引かず譲らぬくだらない事が引き金になっていたりする。現地で聞いた言葉に関心を持った言葉がある。

【戦争を起こす発端はいつも年寄りであり、戦場へ向かうのはいつも若者だ】これはその通りだと思った。若者には勢いこそあるものの、大人として、社会性のある動きが出来ることはほとんどない。だからこそ、しっかりと選挙にも行くべきだと心の底から思った。そして【沖縄の中に米軍基地があるのではない。もはや米軍基地の中に沖縄はあるのだ。】という言葉もまた、聞いた時は胸が痛くジンと熱くなった。沖縄の7割は米軍基地だと聞いた。7割。とても日本の島とは思えない数字。右を見ても左を見ても有刺鉄線が張られたフェンスばかり。それがただ先も見えずにずっと続いている。そこを現地の子達はどのような気持ちで歩いているのか、自転車で下る坂道、体に流れる風は本当に気持ちがいいものなのだろうか。夜な夜な続く米軍基地での演習。それは決して沖縄に静かな夜を呼ぶ事はない。不安な日々で安心して生活を送れるはずがない。守られる日本ではなく、守るべき日本だと感じた。僕たち日本人は、この平和で住みやすいと言われている国、日本を本当に後世まで守り続けていける国にするべきだと思った。大和魂・侍の意・義理と人情誇るべき強き日本人へ。学校の教育だけでは到底足りないと思った。今後、旅先で満喫する前に、足を運んだ先々で歴史を学んでから楽しもうと思った。そこでの歴史や過去の話。そういったものを最初に知っておく事で、旅先でもより一層に満喫できると思った。

今回学んだ事、感じた事を塩竈支部の仲間達にもしっかりと伝え、また、このような現状にある日本について深く考えていきたいと思います。